

葉が生い茂る夏の前にある程度枝の剪定を行っておくことで秋口からの落ち葉整理の負担を軽減できる。休憩時に被災者の方とこの地に家を建てて住み始めた経緯を聞いた。そして、これからも住み続けたいという強い決意も聞かせていただいた。



しかし、決して安全とは言えないこの場所に住み続けることは容易ではない。家の裏には雑木林が生い茂る法面があり、家の下には大雨になると激流になる小川があり、その川岸は一度崩壊したこともある。危険だから引っ越しの方がいいのではと思う気持ちもあるが、被災者の方の想いを尊重したい。だからこそ、「なんとかしたい」と復旧・復興とともに安全・安心に暮らせるためのお手伝いをさせていただいている。

## 被災者の想いに応えていく

作業の後、被災者の方とこれからの打ち合わせも行い、土砂崩れ防止のため、川沿い土手の大木等を整理することとした。今後、どのような危険性があるのかはわからないが少しでも被災者の方の想いに応えていくことが必要と感じる。



## 西日本豪雨災害から六か月



2019年が明けて初めての作業は連休明け1月15日(火)那珂川市埋金区の被災者宅で庭木の伐採と剪定を行った。この日は曇りで気温は10度と1月にしては暖かな気候の中、法面にある柿の木と庭木の剪定等を行った。

## 未来へ共に語りながら

手ノコで柿の木の枝を切り、さらに剪定鋏で細かく整理していく。庭木の剪定も周りの樹木との調和を考えながら行っていった。10度とはいえ寒いのは間違いなく高齢者にとっては厳しい中での作業である。



▲曇りの中、庭木剪定、整理を行う

九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。